

今週（4月5日から4月9日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期間後半に入り、都銀・信託を含む邦銀・証券業態を中心とした取り手の調達意欲が先週に引き続き旺盛で、週を通して過熱感の強いマーケットとなった。無担保コールO/N加重平均レートは、週を通して▲0.01%となっており、本日も横ばいかやや強含みで推移するものと考えられる。ターム物の出合いは足元金利の高止まりを受け1～2W物のショートタームで▲0.008～▲0.005%の出合いが中心となった。日銀当座預金残高は概ね515～520兆円前後で推移した。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.09～▲0.070%のレンジでの取引となった。出合いは投資家の資金調達中心で、レートは安定した推移となった。

SCは個別銘柄では2Y414～422、5Y142～146、10Y349～362、20Y169～175、30Y66～69、40Y13など、カレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、短国買入オペが市場予想より多めの20,000億円でオファーされ、応札額も多かったことから、依然として業者の在庫の余剰感が意識される展開となった。3M物は▲0.090%近辺、6M物は▲0.100%近辺での出合いが見られるなど軟調に推移した。

6日に実施された短国買入オペは、前回より5,000億円増額の20,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.006%、按分落札利回較差+0.005%と、やや弱めな結果となった。

8日に実施された6M物の入札は、WI取引において出合いは見られなかったものの、平均落札利回▲0.0962%、按分落札利回▲0.0962%と軟調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.110%出合いと、堅調に推移した。

9日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.095～▲0.092%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.0945%、按分落札利回▲0.0930%と無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.100～▲0.099%出合いと、しっかりとした推移となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、償還総額1,300億円程度に対して、発行総額4,400億円程度となった。石油・卸売・小売等から大型発行も実施されたが、償還総額が小規模だったこともあり、週を通して案件の少ないマーケットであった。市場残高は21兆円台での推移となっており、先週から徐々に増加している。発行レートに関しては、担保需要が底堅く、引き続きマイナス圏で決着する銘柄が大半となっているが、市場残高が順調に伸長していることもあり、先週と比較すると若干上昇する傾向が全体的に見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
4/5（月）	30,089.25	0.115	110.58	△ 0.010	△ 0.073	5,156,800
4/6（火）	29,696.63	0.105	110.28	△ 0.010	△ 0.083	5,177,600
4/7（水）	29,730.79	0.095	109.77	△ 0.010	△ 0.078	5,188,500
4/8（木）	29,708.98	0.095	109.83	△ 0.010	△ 0.080	5,199,000
4/9（金）	29,768.06	0.100	109.28	△ 0.010	△ 0.077	5,174,300

来週（4月12日から4月16日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/12（月）	3月の企業物価指数(日銀 8:50)				3月の米財政収支
4/13（火）	3月のマネースtock(日銀 8:50)	流動性供給 5,000億円 4/14発行			3月の米消費者物価指数
4/14（水）	第96回信託大会において黒田総裁講演 2月の機械受注統計(内閣府 8:50)	交付税借入 11,000億円 4/23借入			米ページブック
4/15（木）		流動性供給 5,000億円 4/16発行			2月の米企業在庫 3月の米小売売上高 3月の米鉱工業生産・設備稼働率
4/16（金）	2月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB3M 65,000億円 4/19発行			3月の米住宅着工件数 4月のミシガン大消費者信頼感指数速報 3月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/12（月）	600	▲ 4,900	▲ 4,300	CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 100 500	 1,300 200	1,900	▲ 2,400	TB3M発行▲65000償還60800 TB6M発行▲34000償還32000
4/13（火）	2,000	2,000	4,000				0	4,000	
4/14（水）	0	▲ 6,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	源泉税揚げ 流動性供給▲5000
4/15（木）	▲ 1,000	78,000	77,000				0	77,000	年金定時払い 個人向け3Y・5Y・10Y▲発行3500 個人向け3・5・10Y償還1000
4/16（金）	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000	CP買入 被災地支援	▲ 1,300	4,000	2,700	700	流動性供給▲5000 交付税借入▲11000期日11000
週 間 合 計	600	68,100	68,700	—	▲ 900	5,500	4,600	73,300	

4/12は日銀予想、4/13以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、15日に年金定時払いがあるものの、引き続き調達意欲の強い展開が予想される。16日以降は基準比率の増加（3月期間15.5%→4月期間20.5%）や各種オペによりマクロ加算残高の増額が見込まれることなどの要因から、調達ニーズが強い状況は継続されると考えられる。レボ市場は、GC T/Nは、引き続き投資家の資金調達が継続するものの、キャッシュ潰しの資金運用の動きも入ることで、▲0.09～▲0.070%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、16日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、13日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、4月中旬に入り、事業法人の発行状況が注視される。また、13日には今年度最初のCP等買入オペが4,000億円で予定されている。当日のオファー金額を含め、動向が注目される。主要なイベントは、海外では13日に3月の米消費者物価指数が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。